

農業のイメージつかむ

大曲農高生 従事者らと意見交換

将来就農を考えている高校生の農業の現状について説明生に仕事のイメージをつかんじた。農業従事者が年々減りでもらおうと、大仙市の大曲 続け、65歳以上の割合が増加。農業高校で22日、「未来農業 これまでの主力だった水稲者の意見交換会」が行われた。に加え、高収益な作物なども同校の生徒35人が参加し、大 育てる複合型生産構造への曲仙北地域の農家や畜産業者 転換が進んでいると解説した。など交流した。



県仙北地域振興局の主催。 若手農家や畜産業者、林業振興局職員が大曲仙北地域 農家らとの分科会では、生徒が興味のあるブー

スに行き話を聞いた。大仙市中仙地域でトマト栽培を行っている若手農家のブースでは、生徒から「農業のどんなところにやりがいを感じるか」という質問があり、農家は「周りに仲間がたくさんいるので、情報

農業関係者(左)の話聞く大曲農高の生徒

を共有しながら日々試行錯誤できること」と返していた。このほか、肉牛を育てている会社や農事組合法人のブースも人気を集めた。

農業科学科の伊藤秀徳さん

(1年)は「栽培や経営の知識を持った先輩が地域にたくさんいて、協力しながら自分の仕事に向き合っていることが分かった」と話した。

(佐藤和輝)